長野・恒川（ごんが）遺跡

1　所在地　長野県飯田市座光寺恒川
2　調査期間　一九八一年（昭56）一二月～一九八二年（昭57）三月
3　発掘機関　飯田市教育委員会
4　調査担当者　大沢和夫
5　遺跡の種類　集落跡・官衙跡
6　遺跡の年代　弥生～歴史時代
7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

恒川遺跡は、飯田市街から北東へ約五kmの天竜川河成段丘の低位段丘上に位置している。

（飯田）

発掘調査は、座光寺地区を通過する国道一五三号線のバイパス建設に伴って行った。バイパス建設用地のうち約一〇〇〇mに弥生～近世に至るまでの遺跡が連続してあり、全体を恒川遺跡群として把えている。このうち恒川遺跡は、遺跡群の中心的な位置にある。

遺跡群は、弥生中期末以降の連続する集落跡であり、各期毎に相当量の遺構・遺物が検出されている。このうち、奈良～平安時代にかけては、広範囲にわたり掘立柱建物群が確認された。

出土遺物には、和同開珎銀銭・金銅装銙・蹄脚硯・円面硯などがある。

木簡は、恒川遺跡のほぼ中央にある湧水により形成された湿地帯より、多量の土器類・木製品類とともに検出された。

8　木簡の釈文・内容

「長□×　(211)×32×5　019

出土層位が確定できないが、伴出遺物からみて八世紀～十二世紀にかけてのものである。

（小林正春）